

こんぼくやま いそべ べざいてんこふんぐん
15. 今北山・磯部・弁財天古墳群

所在地：鯖江市乙坂今北町・磯部町・落井町

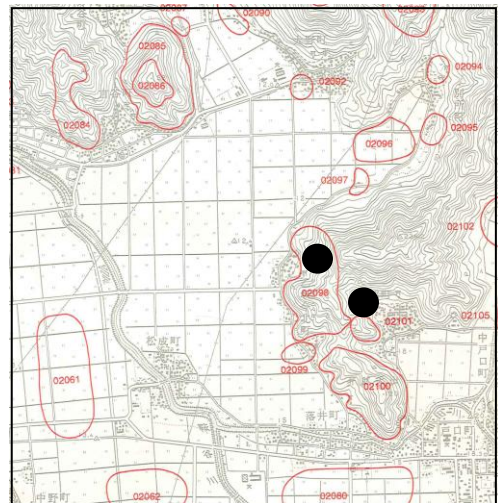
調査原因：範囲内容確認

調査期間：平成28年6月1日～平成29年3月31日

調査主体：鯖江市教育委員会

調査面積：185 m²

時代：弥生・古墳・平安時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 本古墳群は鯖江市東部の平野を見下ろす低丘陵上に分布し、これまでの踏査・調査によって、弥生時代後期から古墳時代前期に至る80基以上の墳墓や古墳（以下、まとめて古墳と記載）が確認されているほか、弥生時代後期の高地性環壕集落も確認されています。本市では、これら遺跡群の国史跡指定を目指しており、その基礎資料を得るため平成22年度から発掘調査事業を実施しています。今回は今北山古墳群の追加調査に加え、これまで未調査の磯部古墳群について、墳形・規模・築造時期の確認を目的とした調査を実施しました。

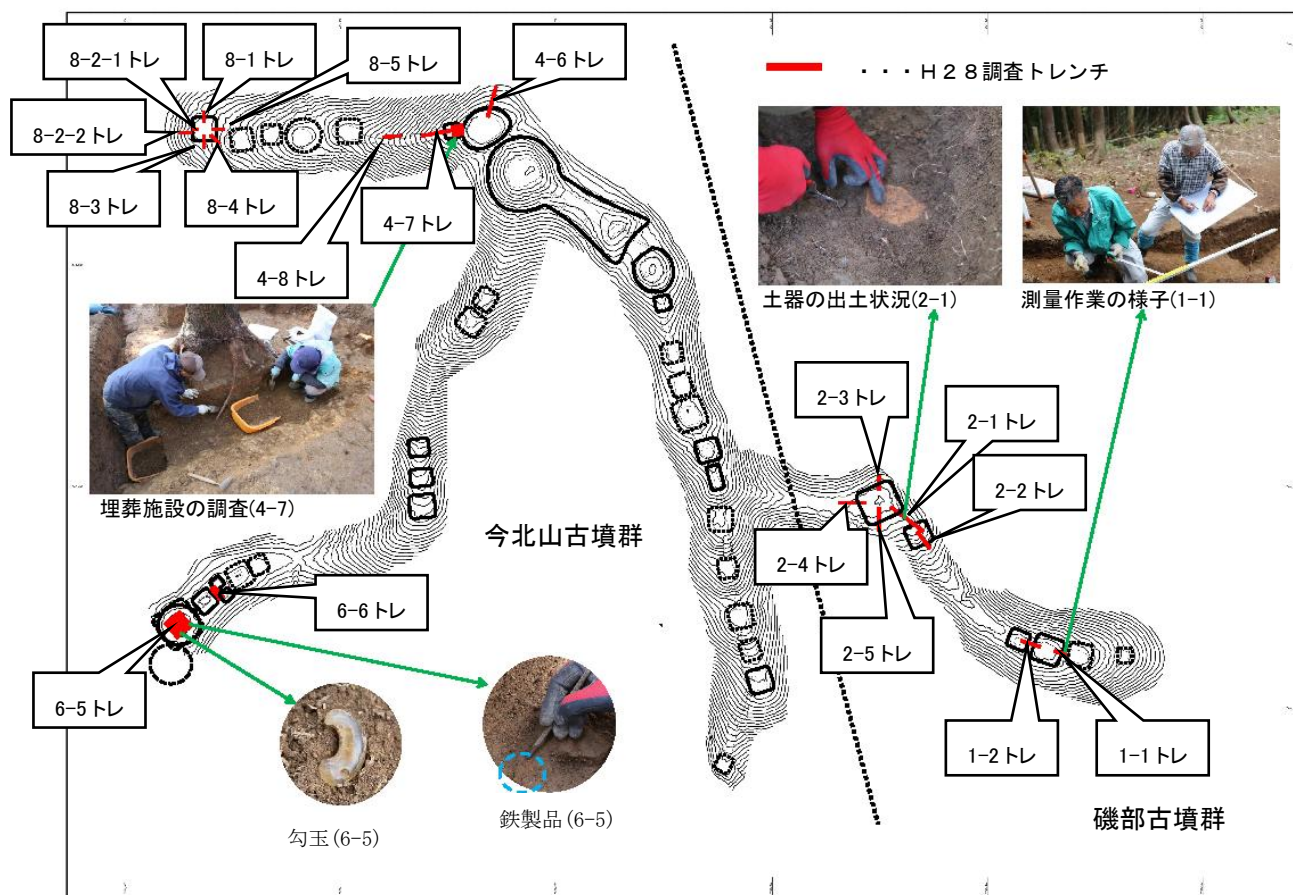
遺構 今北山古墳群で唯一の前方後円墳「今北山古墳」の北側に隣接する古墳が、一部に浅い溝を持つ径約24mの円形墳であることを確認しました（4-6 トレンチ）。この円形墳の西側にある方形墳では、墳頂部平坦面東寄りの位置で埋葬施設とみられる土壇状遺構1基（長軸4.7m、短軸1.9m）を検出しました（4-7 トレンチ）。今北山古墳から南西に延びた尾根先端付近に位置する径約16mの円形墳では、埋葬施設とみられる土壇状遺構2基（4.6×2.6m、2.0以上×1.2m以上）と、その一部を掘り込んだ盗掘坑とみられる土坑状遺構1基（6.2×2.4m）を検出しました（6-5 トレンチ）。さらに、今北山古墳から北西に延びる尾根では、山側に明瞭な溝を持つ長軸18.6m、短軸15.6mの方形墳を確認しました。墳丘西半上部は厚く土盛りされており、墳頂部と墳丘基底部のレベル差は6m以上ありました（8 トレンチ）。

磯部古墳群では3基の古墳を対象に調査を実施し、すべて方形墳であることを確認しました。1 トレンチで調査した方形墳は長軸16.8mで、西側に隣接する方形墳との間は明瞭な溝で区画しているものの、東側に隣接する古墳との間には溝を持たず、地山を平坦に整形していました。また、2 トレンチで調査した方形墳2基のうち、東側の古墳は長軸短軸ともに7m前後に復元され、墳丘西側に明瞭な溝を持ちます。西側の古墳は長軸短軸ともに13m前後に復元され、墳丘西側に幅の広い溝を持ち、墳丘の一部を土盛りして立体的に構築していました。

遺物 コンテナバットにして4箱分の遺物が出土しました。今北山古墳群6-5 トレンチでは、墳頂部の広い範囲から古墳時代中期末から後期初頭頃の須恵器が出土したほか、弥生

時代後期から古墳時代初頭にかけての土器や平安時代の土師器も出土しています。このほか特筆すべきものとして、メノウ製と推定される勾玉が1点出土したほか、用途不明の鉄製品が出土しています。磯部古墳群 2-1 トレンチでは、東端で検出された方形墳を区画する溝の最下層から土器が出土し、概ね弥生時代終末期から古墳時代前期にかけてのものとみられます。またこれと同じ溝の最上層付近を中心に、平安時代の須恵器がまとまって出土しています。

まとめ 今回の調査によって、今北山古墳群の築造時期が弥生時代後期後葉から古墳時代中期末（後期初頭頃）に収まることがほぼ確実となりました。なお、今回調査を実施した古墳時代中期末頃の古墳を除き、これまでの調査で古墳時代中期に築かれた古墳は確認されておらず、この期間の造墓活動は途絶えていた可能性が高いものと思われます。また、磯部古墳群の築造時期は今北山古墳群と重複しており、立地などから判断して今北山古墳群の一支群としてとらえることが妥当とみられます。平成 22 年度から継続して実施して来た発掘調査はこれで終了し、弁財天古墳群を含めた調査成果について今年度末に刊行する総括報告書にまとめる予定です。（深川義之）



平成 28 年度 今北山・磯部古墳群調査トレンチ配置図